

“ドゥーチエ・プロジェクト” 始動！

東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う経済・社会における大きな波への挑戦の勧め
～「まだ5年」ではなく「もう5年」。多様な視点と挑戦で北海道の活性化を！～

1. 背景・目的

日本だけではなく全世界が注目する東京オリンピック・パラリンピックの開催は、5年後に迫っています。会場整備をはじめ、関連設備等様々なインフラ整備はもちろん、国内外の選手や競技関係者、観光客等を受け入れ、大会を支えるためには、衣食住、交通、安全確保等人の行動に関する全ての分野＝「日本の経済・社会」が連動し、変化します。

過去の例を見るまでもなく、東京だけでなく日本全体が大会の成功に向けて動き始めています。世界や日本中の「ヒト・モノ・カネ・情報」が大きな波となり、日本の経済・社会に大きな変化をもたらし、次なる成長・発展への基盤となるはずです。

この経済効果を様々な機関が試算をしていますが、例えば、みずほ総合研究所では、24.2兆円と、巨額の経済効果を試算し、実観客数を300万人～500万人、宿泊を伴う観客数を100万人～150万人と想定しています。また、オリンピックでは、大会に向けて文化プログラムを開催することとなっており、前回のロンドン大会では、開催前の4年間で約18万件、千以上の開催地で文化プログラムが行われ、延べ4,300万人も動員されています。東京の場合も早ければ来年開催のリオデジャネイロ大会後に始まります。文化プログラムの開始を大会の始まりと捉えるなら、東京オリンピックはあと1年余りで始まると考えることもできます。

このような経済・社会の大きな環境変化、事象の発生に地元東京や関東をはじめ、国内各地では、企業、団体、自治体等が売り込みや誘客活動を精力的に行っており、多くの方々が新たな事業展開や事業拡大の好機として捉えています。

北海道経済産業局では、このような状況を踏まえ、「まだ5年もある」ではなく「もう5年しかない」との認識に立ち、世界的に注目が集まるこの波を捉え、巨大で広範囲に及ぶ直接的な市場や間接的な市場への挑戦、試行錯誤を加速させることが、北海道経済の閉塞感を打ち破り発展していくために不可欠だと考えています。そのため、当局では、世界に誇る北海道の優れた要素を商材とし、この新たな巨大市場に大小様々なアプローチを行う際に必要となる多様な視点、価値観、発想等を多角的にとりまとめ、道民が挑戦するための気づきやヒントを提供し、それを刺激やきっかけとして創業・起業、事業拡大、新分野進出、海外展開等の取組を拡大させるとともに、挑戦者の背中を皆で押すような環境を早急に整備することを目的に“ドゥーチエ・プロジェクト”を立ち上げ、広く道内に協働を呼びかけることとしました。

2. “ドゥーチエ・プロジェクト”(以下、ドゥーチエP)の概要

(1) ドゥーチエPの目的

「東京オリンピック開催を契機とする新たな視点を広く道民に提供することで地域活性化に向けた刺激や気づき、きっかけとなる機会を創出し、本道経済界及び道民の知恵と行動を顕在化させ、具体化することで、新たな市場への挑戦を拡大させ、もって北海道経済の好循環実現に資する」ことを目的とします。

(2) ドゥーチエPの具体的な3段階の取組

① STEP1～アイデア発掘（取組に繋がる視点、価値観、障害となる規制等含む）

- a) 有識者(50人)からのヒアリング → 組織より斬新な個人の発想を重視
- b) ドゥーチエ・サロン(東京五輪等を契機とした北海道経済の活性化を考える会)の開催 → 第一線で活躍する有識者10人による知的インスパイアの場
- c) イベントの開催(アイデアソン、セミナー等。札幌、函館、帯広での開催を予定) → 若者、学生からのアイデア公募、機運の醸成

* 議論、発掘に当たっては制約なく行い、道産子以外の視点、若者・女性の視点を重視するとともに、若者や女性、アクティブシニア等の活躍の場づくりを重視。

② STEP2～アイデアの整理・体系化

様々なルートで発掘されたアイデアを、直接的な「オリンピック市場を目指すもの」、「インバウンド増加を目指すもの(寄与するもの)」、「オリンピックを契機にビジネス化を目指すもの」と「クロスオーバー分野」に整理・体系化し、広く道民に、今後の取組の方向性や、取組の具体的ヒントとなるアイデア、視点、価値観、発想等のプランを提示し、きっかけづくりや挑戦のための環境整備を図る。提示に当たっては、ドゥーチエ・サロンの議論を経て行う。

③ STEP3～プランの実現・実行

上記②で提示されたプランを、主力となる「経済界や道民の主体的取組を促すもの」のほか、「当局がプロジェクトメイクを行い、それを支援するもの」、「当局自らが取り組むもの」に分類し、それぞれに相応しい具体的展開方策を検討し、実施可能なものから随時、展開・支援を行う。

3. 検討に当たっての留意事項

検討に当たっては、東京オリンピック・パラリンピックに関連する動向を踏まえ、対処していくものとしますが、そのほかにも以下の項目に留意しながら検討を進めることとしています。

①アイヌ民族象徴空間への対応、②ソーシャルメディアの積極的活用、③次世代層の参加促進(*1)、④プロジェクト／アイデアの具現化(*2)、⑤交通拠点の機能(ハード／ソフト)、⑥道内開催の国際的イベントの動向(*3)

*1 次代を担う若者の意見を積極的に取り入れるため、例えば、プロジェクト・ロゴマークの公募やアイデアソン／ハッカソンの開催など、若者抜擢の機会を創出。アイデアキラーは排除。

*2 クラウドファンディング等の手法を積極的に取り入れ、プロジェクト／アイデアの具現化を目指す。

*3 世界女子カーリング選手権大会(2015. 3 札幌)、スノーボードW杯ハーフパイプ(2016. 2 札幌)、冬季アジア札幌大会(2017. 2 札幌)、ラグビーW杯(2019. 9-10)